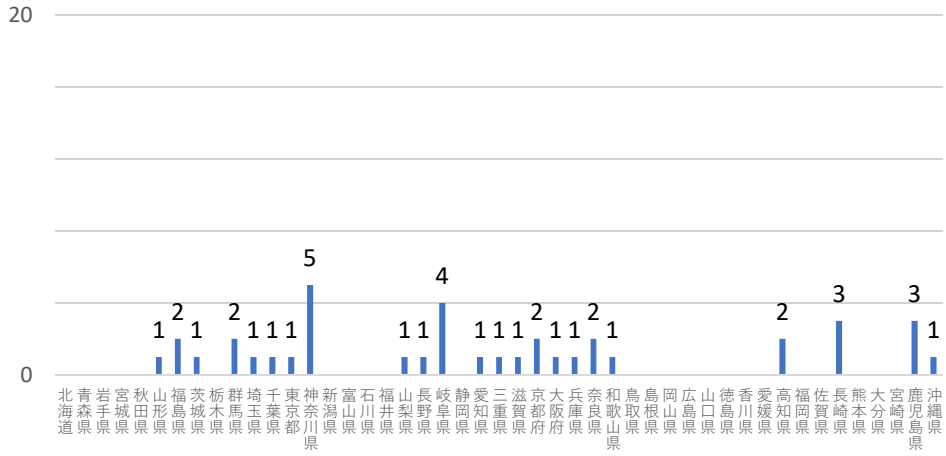
厚生労働省　令和3年度新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金
「新型コロナ影響下での孤立を防ぐつながり人材の育成及び情報提供・アドバイス事業」
2021年9月24日（金）開催　オンライン講座１【申込64人中　回答39件】

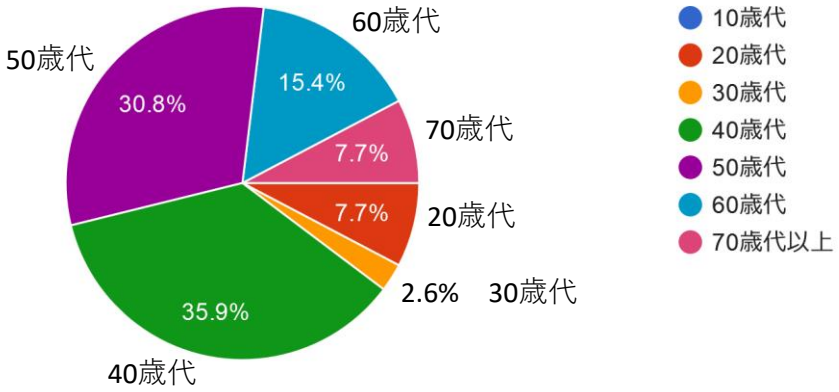
設問１　あなたのことについてお尋ねします。

①お住いの地域を教えてください。（39件の回答）



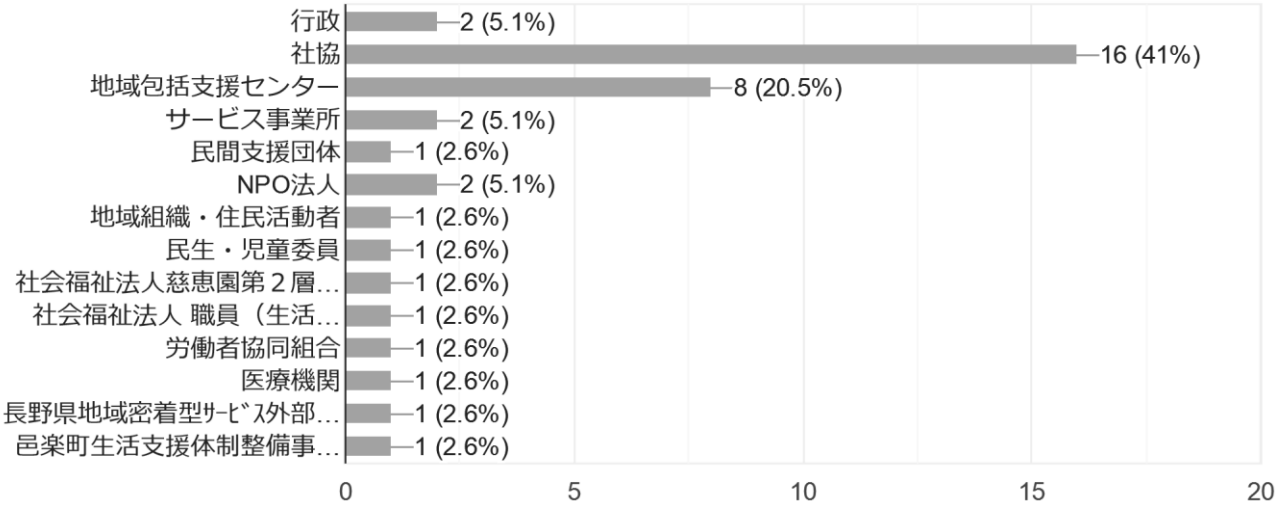
② 年代を教えてください

39 件の回答



③ 所属を教えてください

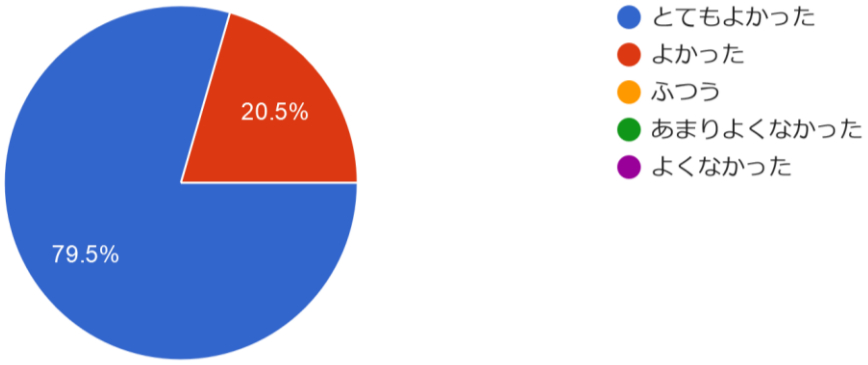
39 件の回答



設問２ 本日の内容についてお尋ねいたします

① 番組内容はいかかでしたか。

39 件の回答



② 番組内容についての感想をお聞かせください（自由記述）

すずの会は26年、ご近所同士で支えたり、支えられたり、地域の人を繋いでこられ、安心して暮らせる地域をつくってこられたとお聞きし、自分達の地域でも、すすの家のような場所があれば、安心して住み続けることが出来ると感じました。協議体でも居場所が必要と意見が上がります。実現に向けての話し合いはあまり進んでいませんが、自分達が安心して暮らせる地域を想像しながら、少しづつでも進めていきたいと感じました。

まだまだお聞きしたかったです。第２弾があればうれしく思います。

鈴木さんのまっすぐな思い、強いパワーを感じました。社協として、本当に今の地域課題に向き合っているのか、今しなければいけないことは何かと、お話を聞いた今自問自答しています。

すずの会の「気になる人を真ん中に」の実践、大変興味深く拝聴しました。　鈴木様の介護経験からにじみ出る当事者性、またつながりの大切さ、それをいかに広げながら、つながりから気に掛け合う関係性の構築へのステップ、参考にさせていただきたく思います。

長年地域の為にご尽力されている活動が素晴らしいと思いました。居場所づくりが出来れば良いと思っていますが、なかなか鈴木さんのように活動出来ません。少しずつでも皆さんや私たちが地域で過ごしやすくなる生活を応援出来る活動を進めていきたいです。

コロナ禍で事業が制限され、職員の焦りもみられます。受託事業となれば止めざるを得ない、だからこそ地域が行っていることを続けやすいように応援する、社協で何ができるか考えるとき、事業の実施主体の目線を変えることを内部で学べる良い機会になりました。

住民主体で、「自分たちがやりたいことを、自発的にやっている」という自然なスタイルにすごく感銘をうけました。幅広く活動をされているなか、きっかけとなったPTAの仲間とのやり取りや、すずの会を立ち上げるまでのエピソードも詳しく聞きたいと思いました。

場所を提供してもらったり、行政や社協からやってくださいと言われたわけではなく、自分の経験を素に、自主的に活動されてるとのことで素晴らしい取り組みを聞かせていただきました。コロナを軽視することはいけないと思いますが、コロナ禍だからこその仕組み作りも大切だと改めて感じさせられました。

地域の力でここまで出来るのはすごい事です。でも、昔はどこにでもあった繋がりでそれが時代の変化と多様な考え方で薄れてきているのでしょうか。

鈴木さんが言われていた介護保険のサービスで繋がりが切れていく。それを今、繋げています。と言われたのが印象的です。介護保険にかかわっている私としては、地域との繋がりを切らずにさらに繋がりを強くしていく事を目指していきたいと思います。

厚生労働省　令和3年度新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金
「新型コロナ影響下での孤立を防ぐつながり人材の育成及び情報提供・アドバイス事業」
2021年9月24日（金）開催　オンライン講座１【申込64人中　回答39件】

本日は、ありがとうございました。実際に、地域で活動されている方の声を聞かせていただき、学ぶべきものが多い講座だったと思います。是非、今後の地域福祉活動に活かし我が町を暮らしやすい場所とするように尽力したいと思います。

住民が自発的に地域に必要な活動を次々に行っており地域に住む住民だからこそ気づくこと課題もあり、その課題を住民だけで解決するのではなく、専門職も巻き込みながら展開していることがとても良いと思いました。行政や社協などから言われて行う活動ではなく、自主的に行った活動だからこそ続けられる、専門職として住民が主体的に行っていることをより活動しやすくすることが必要なのだと感じました。

まさしく『住民主体』の活動についてお聞きすることができて大変参考になりました。関わるボランティアの皆さんが介護・福祉などの有資格者であることは、行政や社協などと同じ立場（それ以上かも）で協議ができますね。『野川セブン』に参加される担当者は、『主体性』を持って参加することが求められ、専門職を育成してくれる役割も担って頂いているように感じました。

ＰＴＡからの繋がりとは本当に驚きです。野川セブンの映像も驚きました。やっぱり当事者の目線で、様々な人々が関わることはとても、大切なんだ改めて痛感させられました。前にも別な講習会に参加していましたが、ここ数年でなんだか大切なものを、どこかに置いてきてしまったようで反省してます。

NPO法人すずの会 鈴木さんの「気になる人を真ん中に」「近所の人の手を借りて小さなつながりをたくさんつくってきた」「活動を動きやすくするのが行政や社協の役割なのでは」というお話が印象的でした。すずの家、野川セブン、ダイアモンドクラブ等のさまざまな活動は、市区町村の規模に関わらず、どの地域にも必要とされるエッセンスが凝縮されていると感じました。自分の活動地域においても、できることからまず始めてみたいと思います。貴重なお話をありがとうございました。

社協職員として地域に関わる時、もっと地域住民の視点で活動したいと思いました。居場所づくりなどに関わる時は今ある地域の居場所や地域特性にも着目してどの地域でも同じではなく地域にあった関わりを意識して活動していきたいと思いました。

NPO法人すずの会　代表　鈴木恵子さんの自分たちで考え自分たちのために動いているから、お金を払ってでも活動する。という言葉がとても印象に残りました。
自分の住んでいる地区、担当している地区でも自分たちのためというより、やらされているという感じを受けます。自分の担当区もまだつながりの第１歩をようやく踏み出したところですが、地域の方に今後の自分たちのために。と思っていただけるようなつながりを作っていく事を大切にしていきたいと思いました。

住民の方の活動を専門職が邪魔してはいけない。改めて自分自身、内省しないといけないと感じました。

自分たちで自発的にやっている。待っているのではなく、課題は地域にあることを知っているので、動いている。人とのかかわり方など心得ていることに（ご本人と家族のかかわりを重視）学びがありました。

ご両親の介護が終わり、その介護経験を活かし地域へ恩返しをしたいというお気持ちから「すずの会」を立ち上げられたとのこと…鈴木さんのお人柄だと感じました。コロナ禍でも利用者や高齢化が進むボランティアを気にかけ今できる活動を考え、行政や包括等と連携を取りながら活動を続けていらっしゃることに感心しました。皆さんの生き生きとした笑顔が想像できます。こちらは田舎ですがコロナ禍だから…と活動を止めています。小さなつながり大切に、いつまでも安心して住み続けられる地域づくりへと…そのお手伝いが出来るよう、今日のお話を参考に出来ることから私も始めていきたいと思いました。今日は「すずの会」さんの活動をご紹介いただきありがとうございました。

すずの会の活動については書籍等で知っていましたが、初めて鈴木恵子さんのお話しを伺うことができました。地域住民と専門職の協働による地域づくりのお手本となる内容がたくさんあり、大変興味深く拝聴しました。あと1時間くらいは聞きたかったです。

大変参考になりました。もっと聞きたい。

参考になるお話を聞かせていただきありがとうございました。１時間では聞き足りないことがたくさんありました。スタッフの高齢化の話がありましたが、同様のことが課題としてあります。どのような対策を講じておられるかお聞きしたかったです。また、企画してください。

厚生労働省　令和3年度新型コロナウイルス感染症セーフティネット強化交付金
「新型コロナ影響下での孤立を防ぐつながり人材の育成及び情報提供･アドバイス事業」
2021年9月24日（金）開催　オンライン講座１【申込64人中　回答39件】

普段医療機関の専門職であるため、在宅や地域福祉の活動や視点について見えにくいのですが、地についた目線で伺うことができました。勤務の関係で途中から拝聴しましたが、それでも大変ありがたかったです。

ハートネットTVは見ていたのですが、資料をつけていただき、お話を聞けるという学習の仕方は　視察に行くことを実現しているといえます。有り難い企画をありがとうございます。

仕事をしながら、他市他県の実践をお聞きできるので、参加もしやすくいつも楽しみにしております。

ご近所の支え合いの本来あるべき姿を見せていただき自分達のSCの活動に活かしていきたい

１．ボラ活動からスタートしていること→今でもボラ精神で貫かれている
２．縦割りの法制度に頼っていないこと→共助から自助への展開
３．必要なものはすぐにつくる→鈴を鳴らせばすぐに行動する→そして全員で振り返る（共有）→委任して質を落とさない（密着）
４．小さなつながりをいくつもつくる→縛られない意見を聴く
５．コロナであっても動くすずの会→言われてやるのではない
６．気にする人と気になるひとをつなぐ→すずの会の役割
７．介護サービスでつながりが切れる→ボラでもつながり補修
８．一時的な単なる居場所作りではない→今できることを、将来の事も子や孫の事までも考える猛者の集団
９．日常生活を見る・守る・作る→本質的な介護予防に何気なく迫っているプロ的集団
１０．ボラも高齢化→時々利用者、時々職員のごちゃ交ぜの社会"

住民主体での取り組みであそこまで出来ることに対して非常に感銘を受けました。感動しました。

鈴の会の活動経過、コロナ禍においてもできることをできることから・・・素晴らしいと思いました。行政等は行事を中止することが感染防止ととらえ、当たり前になっていますが、利用者のことを考え一歩踏み出す勇気に感動し共感しました。

地域での気になる人を真ん中に”のフレーズはとても参考になりました。つい、誰のために、何のためにやっているのか、見失うことがありますが、「すずの会」様の考えたかを見習参りたいと思います。地域の助け合いからスタートされ、その後ミニデイとして多くの専門職、立ち上げ後資格取得された方が関わることで、生活支援に密接に繋がっているところが素晴らしいと思います。また、一つの方法ではなく「男性介護者の会」や、「公園体操の会」、「拠点づくり」等々と多岐にわたった取り組みをされ地域住民の方がご自身に合った支援を選択できるところが真の住民に寄り添った支援をされていると感じ、今後の地域活動の後方支援をしていく上でも非常に参考になりました。ありがとうございました。

住民主体の通いの場を作りたいと思ってしまいますが、もっと住民の方と話し、今ある通いの場を応援していきたいと思いました。

詳しくお話が聞けて良かった。住民自身が考える、実行するの大切さが良く分かりました。簡単にマネできる事ではないですが、常に住民さんと考えて前向きにできることを取り組んでいきたいです。動画で見たのが、やはり印象的でした。

まずは、今回の企画＆実施につきまして、たいへんありがとうございました。

すずの会の説明だけでも、1時間では収まらないと思います。そこにハートネットＴＶでフォーカスされたコロナ禍での活動も加えるとなるといっそうです。ハートネットＴＶの番組を短く編集くださったものを流していただいたので、そこはよかったのですが、あとから野川セブンやダイヤモンドクラブの説明を鈴木さんにしていただくシーンがあったかと思いますが、冗長あるいは『この短いセッションの中で、そこか？！』と思ったりしていました。　時間がもったいなかったかなと。

言い換えると、せっかくセッションを設けていただいたのに、伝えていただくポイントが（ちょっと）不明瞭だったかなと思いました。　ハートネットＴＶで語られていることのさらに深堀り、あるいは全国ネットでは言えなかったことなど、まさに鈴木さんのナマの声が聞きたかったかなと（少し触れられていたようにも思いますが）。

たとえば、（行政と関係なく／切り離して）独自の活動として何をしたか、それはなぜ独自であったのか（独自でなければならなかったのか）、といった点です。実は、鈴木さんは、総論としてそれに触れてくださっています、『（行政に）言われてしていることは一つもない、すべて自分たちがすべきと判断したこと』と。
ここが、すずの会の核心かと思っています。　一方で、それは川崎市という独自性があるからかもとも。　他の地域では、行政や社協（、あるいは包括）等との距離が近ければ、こんな発想にはならないかも、と。あるいは、どこも似たようなものなのでしょうか（そうは思っていないのですが）。

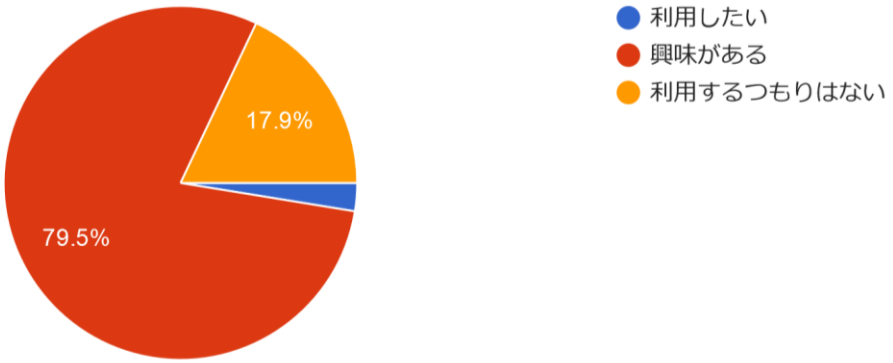
時系列的に、どのように活動を緩和？再開？していったのか、とか、その際の考察はどうだったのか、今振り返って、もっとこうすればよかったとかいう点はなかったか、などの切り口で、当事者である鈴木さんからお話をいただけたらよかったかなと思いました。

行政（宮前区？）に持ち帰ってもらった件もあったかと思いますが、その後日談も聞きたかったです。

これからについての展望は？　コロナが終息するまでは今の延長で？　終息が、1年後、2年後でも？　終息宣言がされたら、元の活動に戻る？　等々これからについて、考えていることなどもお聞きしたかったです。

③包括的支援体制構築に取り組む支援団体・自治体向けのオンライン相談事業を10月1日から受付します。利用したいと思いますか。

39 件の回答



④その他のご意見やお気づきの点などがございましたらお聞かせください（自由記述）

生活支援コーディネーターとしてはまだまだ未熟者です。沢山の方々のご経験をお伺いして沢山学びたいです。

包括的支援体制の構築、今後の重層的支援体制など検討する必要がありますが、今回、事業実施主体の行政が参加しておりませんので、上記回答となっています。また、今回の内容を踏まえて、行政との情報共有をしていきたいとおもいます。

今講座の案内を行政より頂いたのですが、申し込みまでの期限があまりなかったので他の職員等に知らせることが儘ならず残念でいた。大変すばらしい講座なので自分だけで聞くのはもったいないように感じました。

１時間と時間が短かったのでもっとじっくりすずの会さんの活動を聞きたいと思いました。

コロナ禍のなか、感染リスクを理由に『何もしない』ことを選択している自治体は、今後ますます地域づくりに苦労すると思います。『誰が動かすのか？』のヒントを貰えたような気がします。地域の主役はそこに生活する住民であり、社協は地域に寄り添いながら住民活動の支援を丁寧に行う必要性を再確認しました。ありがとうございました。

住民の方と一緒に見て、今後の活動のことを一緒に考えていく機会をつくりたいと思いました。

日常生活の延長であること。住民としての立ち位置から地域包括や行政などを巻き込んでいるところなど素晴らしいと思いました。住民からもまだまだできることがあることを学びました。NPOだからできることなのか、住民ボランティアでは難しいことでしょうか？

孤立させない取り組みについて、改めて考えさせられました。介護サービスの利用が逆につながりを切ってしまう面もあることについては、考えさせられました。

ありがとうございました。

参考になりました。

鈴木さんのお話は何度も拝聴しておりますが、コロナ渦で改めてお聞きすることができてよかったです。今は包括を所管する部署にいるので、なんでも包括で抱え込まずに地域の中でつながりを増やす働きかけをしたいと思いました。

邑楽町ボランティアグループ活動にも参加しています。コロナ禍で従来の活動ができず、新たな活動、方法を模索しています。（施設訪問や福祉バザー、高齢者の居場所の手伝い等）

研修に参加させていただき、ありがとうございました。コロナ禍の中で、「認知症カフェ」「家族会」「えんがわ（地域の交流会）」）等が次々と中止・延期になっており、ZOOMを使って２回ほど交流会を企画・実践しましたが、本当に必要な人には届かず、ジレンマになっていました。地域での孤立をなくすため、他の地域ではどのような取り組みをされているのか、是非、知りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

質問なんですが、それぞれの事業に参加される方の参加費はいくらぐらいでしょうか。お聞きしたいです。

大変、勉強になりました。少しずつですが、進めていきたいと思います。ありがとうございました。

参加者が64名ということで、司会の方は『たくさんの方』とおっしゃっていましたが、わたしは逆で、少ないなぁと思っていました。　全国版での開催でこの数字はどんなものかと。　CLCさんのリーチ先が限定的なのか、PR（文）が不十分なのか、そもそも企画に魅力がないか。

参考資料（ダウンロード資料）は、秀逸でした。

すずの会の説明は何度も聞いているし、『タッチ』を含めていろいろと刊行物？は入手しているし、すずの家にも伺っているし、野川セブンも膨張させていただいたことがありますので、他の視聴者？の方々と違った観点から今回参加させていただいたかと思いますが、『鈴木さん（すずの会さん）、相変わらずがんばってるな』とうれしくなる機会でした。　ありがとうございました。"